

# 白磁

どはく

井上萬二のわざ



白磁は、近世以降の有田において、主に染付や赤絵などの加飾の素地として発展してきたが、井上萬二は、単なる素地にとどまらない白磁そのものの魅力を見出し、その美を追求している。この映画は、井上の「白磁花形染麦彫文鉢」の制作工程を追いながら、井上の白磁のわざと、人となりを描いたものである。

平成20年度  
工芸技術記録映画  
35ミリ・カラー・35分  
企画 文化庁  
製作 桜映画社



# 白 磁

どはく

井上萬二のわざ



## プロローグ

白磁は、磁土を原料とし、透明釉を掛けて高温で焼成する伝統的な陶芸技法。この技法は、6世紀ごろの中国に始まり、のちに朝鮮半島を経て江戸初期の有田に伝わった。



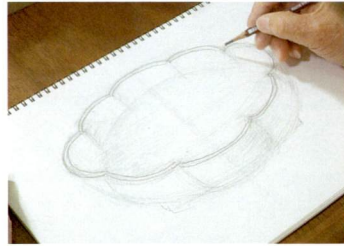
## 井上の白磁

井上萬二は、平成7年(1995)66歳のとき、重要無形文化財「白磁」(各個認定)保持者の認定を受けた。



## 有田と井上の工房

井上萬二の窯は、佐賀県有田町の南川原にある。



## 作品の構想

井上は、8つの花卉のある花形鉢の構想を練った。



## 磁土の調合

現在、井上は、熊本県天草産の陶石を原料とする磁土を使用している。



## 土こね

まず磁土を練る。土こねが不完全だと、土の中に空気が入り、焼成後に小さな穴ができてしまうので、丁寧に行う。



## 花形鉢の成形

井上が花形鉢をつくる轆轤成形の工程を見ていく。磁土の粒子は細かく、固いので、轆轤で立ち上げるのには力がある。



## 井上の生い立ちと作家への道

井上は、昭和4年(1929)に有田町の窯元の四男として生まれ、16歳で12代酒井田柿右衛門の工房に入門、作陶の道を歩み始めた。その後、初代奥川忠右衛門の下でも修業を重ねた。



## へらの使用

びんべら、おしべらなどの道具を活用して鉢を造形する。



## 縁を整える

余分な土を切り落とし、鉢の縁を整える。花形の鉢をつくるためには、まずその土台として丸い鉢をつくる。



## 歪みをとる

丸い鉢は成形したあと、2日ほど乾燥させ、少し固くしたところで、再び轆轤に掛けて形の歪みを修整する。さらに、鉢の形状を花の形につくっていく。



## 輪花鉢の造形

鉢の縁にしるしを付け、人差し指で押しにくびれをつくる。さらに、くびれた部分に付け土をして補強する。



## 剣先で形を整える

縁が花形に整ったら、さらに剣先と呼ぶ道具を使って削り、シャープなラインをつくりだす。



## 乾燥と削り

成形した鉢を完全に乾燥させる。乾燥後、高台など余分な部分を削る。

VHS・DVD……31,500円 (団体使用権付ライブラリー価格)  
5,250円 (個人価格)  
16mm……273,000円



# 白 はく 磁

井上萬二のわざ



## 麦の彫文

花形の鉢の内側を飾る文様として、手製の彫り道具で麦の文様を彫る。このあと、鉢の素焼きをする。



## 呉須による濃み

釉掛の前に、麦の彫り文様に薄い呉須を差して、文様をより鮮明にする。



## 施釉

長石に石灰石を加えた白磁の釉薬。はじめに鉢の内側に釉薬を掛け、次に外側に掛ける。



## 本焼焼成

本焼は還元焼成で、ガス窯の温度を、一昼夜かけて1300度までゆっくり上げていく。



## 窯出し

窯の火を止めてから、4日後に窯出しの日がきた。



## 完成作品「白磁花形染麦彫文鉢」

純白の白磁の中に、ほのかに浮かび上がった麦の文様。井上の人柄を反映した、柔らかな表情をたたえる、温かみのある白磁である。



## 井上萬二 いのうえ・まんじ

昭和4年(1929)佐賀県生まれ。12代酒井田柿右衛門、初代奥川忠右衛門に師事したあと、佐賀県窯業試験場に勤務しながら、磁器の成形、釉薬・意匠等の研究に取り組み、伝統的な白磁制作技法を高度に体得した。日本伝統工芸展等において受賞を重ね、かずかずの優品を発表するとともに、国内外で個展等を多数開催し、意欲的な活動を続けている。また、国内における後進の指導のみならず、米国ペンシルバニア大学をはじめ海外の教育機関における研究・技術指導の経験も豊富である。平成7年(1995)、重要無形文化財「白磁」(各個認定)保持者に認定された。平成9年(1997)紫綬褒章、平成15年(2003)旭日中綬章受章。

協力

東京国立博物館  
東京国立近代美術館  
佐賀県立九州陶磁文化館  
鹿児島県串良町  
香田陶土有限公司  
井上萬二窯の皆さん

製作スタッフ

製作 山本孝行  
脚本・演出 村山正実  
撮影 山屋恵司  
撮影助手 森英男  
照明 本橋俊男  
照明助手 佐藤大和  
ネガ編集 加納宗子  
演出 山崎宏  
制作 荒井富保  
効果 帆苅幸雄  
録音スタジオ アオイスタジオ  
タイトル 菁映社  
制作 IMAGICA  
ライター 広瀬修子